

厚生労働行政推進調査事業費補助金(厚生労働科学特別研究事業)
(分担)研究報告書

熊本地震後の避難所での深部静脈血栓症巡回検診に関する研究

研究分担者 坂本憲治 熊本市市民病院循環器科

平成28年熊本地震における深部静脈血栓症巡回一斉検診をおこなった。その結果と課題について報告する。

詳細は添付のPDF(分担坂本憲治資料.pdf)を参照。

前)熊本市市民病院循環器科医長
現)熊本大学大学院生命科学研究部循環器内科学助教

A. 研究目的

熊本地震後の避難所での下肢静脈エコーを用いた深部静脈血栓症検診の有用性について研究する

B. 研究方法

避難所で問診を行い深部静脈血栓症ハイリスク避難者に対し下肢静脈エコーを行い、血栓有りなら、血中D-ダイマー測定、高値であれば基幹病院に紹介した。

(倫理面への配慮)

緊急災害時ではあるが、本人から承諾をとり、日本循環器学会災害時循環器疾患の予防・管理に関するガイドラインに従い施行した。

C. 研究結果

発災から5月31日までの2ヶ月間で、2315名の被災者にエコーを施行した。下肢血栓陽性率は、9.5%、高齢になるに従い陽性率は上昇した。下肢血栓の予測因子は、高齢(70歳以上)、眠剤使用、下腿腫脹、下腿表在静脈瘤であった。4つの因子を有する時の血栓陽性率は71%であった。5月31日で終了し6月、8月、9月、10月、12月にフォローアップ検診を施行した。血栓陽性率は10%前後で不変であったが、D-ダイマー陽性率は血栓が存在しても低値であり、リスクの高い血栓ではないことを示している。

D. 考察

災害当初から学会、専門家の支援、多職種の医療スタッフ、行政の協力のもと試行錯誤をへて、統一化されて機能的なチームとなった。災害時に備えた専門チームの結成とマニュアル作成により、早期からの効率的介入が可能になる。

E. 結論

災害時の下肢静脈エコーを用いた深部静脈血栓症検診は少なくとも有害ではないものの、いつまで、どこで、だれに対し施行するのが、検討が必要である。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Koji Sato, Kenji Sakamoto, Seiji Hokimoto, et al. Risk factors and the prevalence of DVT post Kumamoto earthquakes.投稿中

2. 学会発表

第81回日本循環器学会学術集会 金沢 Late Breaking Cohort Studies-Poster2: Systemic Thrombosis and Treatment Clinical Course and Prognosis of Deep Vein Thrombosis Post the 2016 Kumamoto Earthquakes: KEEP Project DVT Cohort Study

発表 : 坂本 憲治2017.3.19

第 270 回 湖東カンファレンス 熊本テルサ 熊本地震後の DVT 症例の経過と新規抗凝固薬の有用性について KEEP Project

発表 : 坂本 憲治2017.3.29

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし